

ふれあいニュースレター

【政府原子力被災者生活支援チームからのお知らせ】

今号の

ほっと・ニュース

今年も勇壮に

7月25日からの3日間にわたって開催された伝統の「相馬野馬追」は、20万人を大きく超え、震災前に迫る勢いの人出となりました。

最終日の27日には、南相馬市小高区ののまかけ小高神社で神事「野馬懸」が行われました。裸馬を追い込むたびに、詰めかけた大勢の観客から歓声が上がっていました。

神旗争奪戦（26日）
南相馬市原町区



野馬懸（27日）
南相馬市小高区



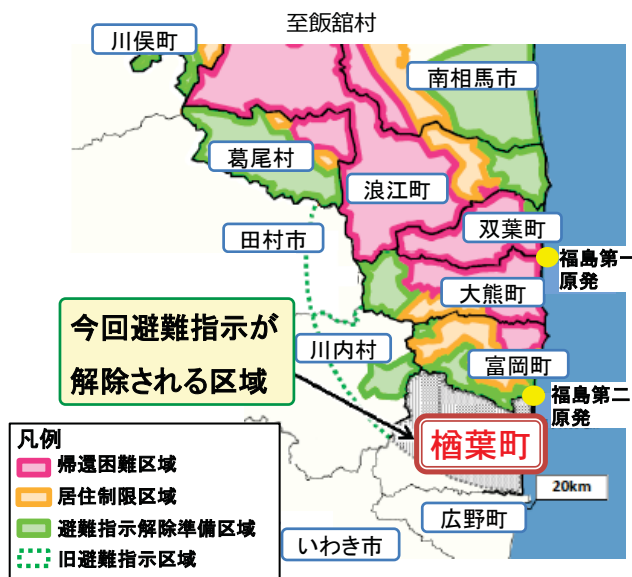
右上写真提供：
南相馬市



楢葉町の避難指示の解除を決定しました

政府原子力災害対策本部は、8月7日、楢葉町に設定されていた避難指示解除準備区域を、9月5日（土）午前0時をもって解除することを決定しました。

政府としては、一人でも多くの方が、一日でも早くふるさとに戻るよう、避難指示の解除後も引き続き、町・町議会・県をはじめとする関係者の方々と一致協力し、楢葉町の復興、「“新生ならは”の創造」に取り組んでいきます。



花とみどりプロジェクト
（27年7月、ならは応援団）

写真提供：楢葉町

暮らし関連2



「野馬追だけでなく南相馬の魅力を発掘していきたい」

暮らし関連3



「これからも質の高いトルコギキョウを出荷していきたい」

NEWS等4

- ・飯館村に仮設商業施設オープン
- ・常磐道・国道6号の避難指示区域通過時の被ばく線量等



詳しくは、原子力被災者生活支援チームのホームページをご覧ください。

http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/kinkyu/hinanshiji/2015/0807_01.html



「野馬追だけでない南相馬の魅力を発掘していきたい」

平成18年に銘醸館(イベントスペースや食事処を有する施設)の指定管理者として市役所から分離され、昨年(平成26年)に現在の名称になりました。

観光案内や各種情報発信に加え、野馬追フォトコンテストや桜まつりといったイベントの開催や、各種地元産品の委託販売も行っています。

要請があれば、首都圏など他地域でのイベントに出展して観光情報の発信をすることもあります。

観光客は、ボランティアガイドの申込数でみると一昨年から今年にかけて増加してきています。

常磐道が本年3月に全線開通しましたが、当初は

サービスエリアの関係事業者以外には目立った効果は感じられませんでした。しかし、今年7月下旬の相馬野馬追の団体席が6月下旬には早くも売り切れになるなどの効果も表れてきており、首都圏からの活動圏内に入ったように見受けられます。これからは常磐道経由で野馬追を見に来られるお客さんが増えると予想して、いわき市の温泉組合との連携を始めたいところです。

野馬追以外の時期にも人を呼べるものが必要と考えており、できるところから一つずつ取り組んでいきたいと思っています。

例えば、欧米人を対象に農家民宿などの体験型観光を増やせないかと



野馬追通り銘醸館内にあります



新ホームページとフェイスブックで情報を発信していきます。

一般社団法人 南相馬観光協会
事務局長 高橋 真 さん(左端) と
スタッフのみなさん

考えており、対象となる人達のニーズに合わせた情報発信に取り組んでいきます。

今後のPR次第では地域が大きく変わる可能性があるのではないかと期待しています。



お客様からのお問い合わせに丁寧に対応します



お土産もいろいろ置いています



(一般社団法人) 南相馬観光協会
福島県南相馬市原町区本町2-52
連絡先: 0244-22-2114
<http://www.minami-soma.com/kanko/>
<https://www.facebook.com/minamisoma.kanko>



「これからも質の高いトルコギキョウ を出荷していきたい」

父（利久さん）の代から葉たばこを栽培していましたが、30年近く前に、数人の仲間とともに、より収益性のあるトルコギキョウの栽培に取り組み始めました。

トルコギキョウは今では冠婚葬祭から普段使いまで人気があり、毎年いろいろな種苗会社から競って新しい品種が発売されます。今年ここでは40種類近くを栽培しています。

山木屋地区は標高約550mの高地にあり、昼夜の温度差が大きいと発色に優れた花が得られることから、

市場の動向を見ながら、様々な品種を栽培しています。

トルコギキョウの栽培に適しています。毎年7月中下旬から首都圏の市場に出荷しています。

栽培を始めた当初は適切な育苗資材もなく、育苗容器を手作りするなどしながら試行錯誤を重ねてきました。

事故後しばらく栽培ができない中、ライバルの産地も多く、早期再開の必要性を感じました。先行除染してもらったハウスのビニルを自分達で張り替えたりして修繕し、一昨年に試験実証栽培を行い、昨年夏に出荷再開を果たすことができました。栽培面積も徐々に戻し、今年の4月には、東京の花き市場で働いていた長男（晶彦さん）が



今年は栽培面積を震災前の9割近くまで戻しています。

あぶくまカットフラワーグループ
(左から) 廣野 勝久 さん、
利久 さん、晶彦 さん

戻ってきました。

ネット販売が主流になり競争がますます激化する中、市場からの要請に応え、栽培する品種を選択したり出荷方法に改良を加えたりしています。



一つのハウスを仕切って複数の品種を栽培しています



花のラインが遠くまで続きます



あぶくまカットフラワーグループ
福島県伊達郡川俣町山木屋地区
代表連絡先：024-563-2453(菅野)

一緒に働き
ましょう！

NEWS 飯舘村に仮設商業施設がオープンしました

7月31日に、飯舘村の県道12号線沿いに「セブン-イレブン飯舘村仮設店舗店」がオープンしました。全村避難中の飯舘村では、小売店舗としては初の出店となります。(営業時間：AM6-PM8、無休)

開店当日には、飯舘村の菅野村長などが参列して、オープニングセレモニーが開催されました。

店内には、弁当や飲料、日用品など約2,400種類の商品が揃えられ、一時帰宅する村民の皆さん、除染作業員の方々や村内にて事業を再開している企業の従業員の方々などの生活が、これまでより便利になります。

ゆくゆくは、帰村する村民の皆さんの生活を支えるものとなることが期待されています。



写真提供：飯舘村

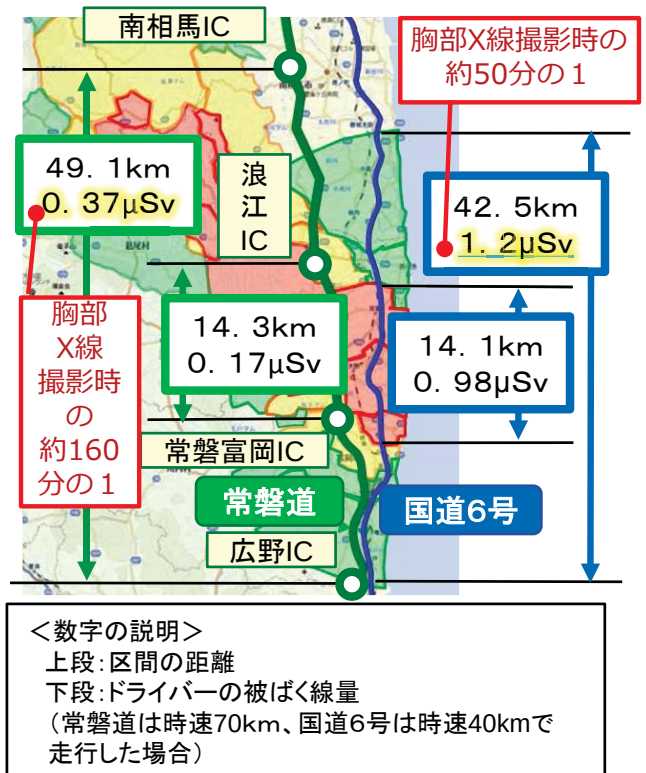
NEWS 常磐道や国道6号の避難指示区域を通過する際の被ばく線量などを調べました

現在、常磐自動車道や国道6号は、帰還困難区域を通行証なしで通行できます。

原子力被災者生活支援チームでは、関係者の協力を得て、通行時のドライバーの被ばく線量とトラックや積荷の汚染状況を調べた結果を6月24日に公表しました。

例えば、常磐道の広野ICから南相馬ICを時速70kmで通過した際のドライバーの被ばく線量は、1回あたり0.37マイクロシーベルト(μSv)でした。これは、胸部X線撮影時の被ばく量の約160分の1です。

また、常磐道や国道6号の帰還困難区域などをトラックで通過した際のトラック本体や積荷の表面などの汚染度合を調べたところ、いずれも検出限界値を下回りました。



詳しくは、原子力被災者生活支援チームのホームページをご覧ください。
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/release.html#infrastructure>



「ふれあいニューズレター」バックナンバーのご案内

過去の「ふれあいニューズレター」につきましては、以下のアドレスよりご覧いただくことが可能です。ぜひご覧ください。
http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/kinkyu.html#info_fureai_letter